

働きやすい職場環境の形成に向けて ーリスキングの必要性ー

リスキングとは、「新しい職業に就くため、あるいは現在の職業において求められるスキルの大幅な変化に対応するために、必要なスキルを獲得すること」を指す。近年では、デジタル化やAIの進展、産業構造の変化を背景として、その重要性は一層高まっている。

一方で、スキルの向上によって転職市場での評価が高まり、人材流出につながるのではないかと懸念もある。この考え方には一定の合理性があり、能力の高い人材ほど転職の機会が増えることは事実である。

こうした中、一般財団法人南都経済研究所が2026年3月に実施した地元企業動向調査の付帯調査によると、「働きやすい職場環境への取り組み」として「従業員のキャリア形成やリスキングの推奨」を実施している企業は45.8%にとどまった。今後取り組む予定のある企業（15.4%）を含めても約6割にとどまり、「長時間労働の削減」（88.3%）や「休業・各種休暇制度の利用促進」（79.2%）といった上位項目と比較すると、相対的に低い水準にあることが分かる。

この背景には、人材流出への懸念に加え、リス

キングが中長期的な取り組みであるため短期的な成果が見えにくいこと、また教育コストや人的負担が大きいことなどから、企業が導入に慎重になっている実情があると考えられる。

しかしながら、現代のビジネス環境においては、リスキングを行わないこと自体が、より大きなリスクとなり得る。デジタル化や技術革新が進展する中で、社員のスキルが陳腐化すれば、企業全体の競争力は低下する。また、成長機会が提供されない職場では、社員のモチベーションやエンゲージメントが低下し、その結果として優秀な人材の離職を招く可能性が高まる。適切に設計・運用されたリスキングは、むしろ人材の定着率向上に寄与すると考えられる。習得したスキルを活かせる業務機会の提供や、公正な評価・報酬制度との連動により、社員は自社での成長を実感しやすくなるためである。

以上を踏まえると、リスキングは、企業が働きやすい職場環境を整備し、持続的な成長と競争力の強化を実現するために不可欠な取り組みであるといえる。

（丸尾尚史）

働きやすい職場環境への取り組みについて

